１（２）多様な対象者のための学習講座
②民具に触れる「草取り機（ラチ）」

令和元年６月 16 日（日）
於：砺波市庄川町示野
エントランス庄川

〇草取り機（ラチ）

「草取り機(ラチ)」は田植え後の草取り作業を行うための道具(民具)で、この農具の出現で作業の効率と収穫率が格段に上がった。実際に民具に触れ、その機能を知り、作業を体験することで、先人の生きる知恵や工夫を学ぶ。

《写真》

砺波市庄川町青島公民館と庄川小学校の協力のもと本委員会も連携し、5 年生を対象に、昔の農作業体験（草取り作業）を行った。郷土資料館より、教材用農具（ラチ）を貸し出して掲げ、昔の作業風景を解説、実演をした。小学生：48 名、保護者：15 名、支援ボランティア（公民館）15 名、実行委員会：2 名参加。

「草取り機(ラチ)」の歴史や機能を学習後、3 種の現物を観察し、動かした。

〇内容・経過

昔の草取りは手作業で人が腰をかがめ、手を使って田んぼ全部の草取りをしていたが、草取り機（ラチ）の発明により、稲の側を省く大半の面積を草取り機で作業を行う事が出来るようになった。これにより作業の効率と収穫率が格段に上がった。同時に人口増や経済の発展にも繋がった。一番ラチ、二番ラチ、三番ラチと３回、苗の間に入れて交差するようラチがけする。ラチの種類も３種類ほどあり、一番ラチには土を深く掘り起こし、雑草を土の中に沈めるタイプのラチ、二番ラチには草を埋込みながら前進しやすい船付のラチ、三番ラチには草を絡め取りながら前進しやすい船付の仕上用ラチを使い分ける。

（感想から）草自体が科学肥料のない時代には肥料となったことに驚いた。また、稲の生育を見ながら使い分けるということからも、昔の人は稲を大切に育てていることがよくわかった。　3 種類のラチにそれぞれの働きがありよく考えられている。

〇評価と課題

「現物を持って行き、実際に触る」ことの威力を感じることができた。鑑賞だけではこのような化学反応は起きない。高齢者の参加もあり多世代の集まりであったこともよい雰囲気を出せた。機械が工夫され能率が上がっていく、進歩していくことを具体的に学ぶ機会となった。